

# コンラート・ゲスナー『万有書誌』に 収録された印刷本について

雪嶋 宏一

## 抄録

コンラート・ゲスナーによる『万有書誌』には版の同定を可能にすると思われる印刷本の書誌情報が著者1,706名分3,855件収録されている。それらの印刷年の範囲は1473-1545年であり、印刷地はバーゼルを中心にヴェネツィア、パリ、リヨン、ケルン、シュトラスブルク等の当時の印刷出版センターが主要であり、さらにその範囲はドイツ北部、ポーランド、リトアニア、ルーマニア、トルコ、ナポリ、ポルトガル、低地地方の広範な地域に及んでいた。印刷本が多数収録された著者としてはメランヒトン、ルター、エコランパディウス、ミュンスター、ニューフォ、ピベス等であり、宗教改革者が上位にあった。書誌記述の特徴はタイトルページから書名を特定するのに必要な語句を選択しているが、刊記については一定の基準で最低限の記述を行っていた。また、検索の便を考えて、訳者や編者を副出したり、書物の内容を分出したりしており、構成部分レベルの書誌記述を行っていたことが判明した。

## Summary

Bibliographic information of printed books to be identified with the edition in the *Bibliotheca Vniuersalis* (Zürich, 1545) written by Conrad Gessner (1516-1565) contains 3,855 items of 1,706 authors. The range of the years of printing is between 1473 and 1545, and the main places of printing of the books are Basel, Venice, Paris, Lyon, Cologne, and Strassburg, and the range of places of printing reaches broad regions of Northern Germany, Poland, Lithuania, Romania, Turkey, Naples, Portugal, and the Netherlands. The authors whose printed books are included in the *Bibliotheca Vniuersalis* are mainly Philipp Melanchthon, Martin Luther, Johannes Oecolampadius, Sebastian Münster, Agostino Nifo, and Juan Luis Vives, some of whom were the leaders of the Reformation. Gessner's bibliographic descriptions feature that words and phrases are selected from the title page to be required to identify the titles, and the descriptions of the imprints have certain standards to a minimum. Considering a convenience of retrieving translators and editors, Gessner made added entries and analytical entries. It is clear that Gessner wrote the bibliographic description of the composition level.

## 1. 本研究の目的

スイスの博物学者コンラート・ゲスナー（Gessner, Conrad, 1516–65）の初期の代表作『万有書誌 *Bibliotheca Vniuersalis*』（Zürich: Froschauer, 1545）（以下 BV1 と略）、およびその続巻『総覧 *Pandectarum*』（Zürich: Froschauer, 1548）（以下 BV2-1 と略）、『神学の部 *Partitiones Theologicae*』（Zürich: Froschauer, 1549）（以下 BV2-2 と略）は図書館学の古典としてつとに知られている。しかし、そこにどのような書物の情報がどのような形でどれだけ収録されたのかという問題については、これまであまり実証的な研究は行われてこなかった。そのため、筆者は BV1 に収録された著者名数、著作の情報源<sup>1</sup>、ゲスナーと同時代の 16 世紀の著者と宗教改革との関係<sup>2</sup>、印刷本の書誌記述要素とその起源について調査を進めてきた<sup>3</sup>。その結果判明したことは、ゲスナーは印刷本に大変大きな関心を示していたことである。1543 年春にはフランクフルト・アム・マインで開催された書籍の大市に赴き<sup>4</sup>、同時代の印刷出版業者が発行する印刷販売書目録を収集し、さらに彼等から出版情報を入手していた。ゲスナーはこれらの業者の中から顕著な活躍をしているスイス、ドイツ、フランス、イタリアの業者を選択して、印刷出版業者へ讃辞を捧げて彼等の活動や印刷販売書目録について BV2-1 と BV2-2 の各分類冒頭で記述した。こうして、BV1 には多数の印刷本の情報が入り込められたのであり、それらの情報をこれら業者の印刷販売書目録の記述方法を改良して BV1 で印刷本を同定可能な程度に目録記述を行ったのである<sup>5</sup>。

さらに、筆者は BV1 の内容をより詳しく知る必要から、これまで極めて曖昧に推定されてきた本書に収録された書物の数量を具体的に把握するため、まずは本書に収録されている印刷本の情報から抽出して、その数量をカウントすることにした。このような調査によって、本書に収録された書物の具体的な数量の一部を知ることができるのではないかと考えたのである。

BV1 に収録された書物の数量については以前拙稿で言及したが<sup>6</sup>、それ以降に知ることができた先行研究について触れておかなければならない。従来約 3,000 名の著者で約 12,000 点の書物が収録されていると推測されていたが、セッライ（Serrai, Alfredo）は 1990 年に発表した著書では収録された著者を少なくとも 5,000 名としながら収録書物数については具体的な数字を示さなかった。ところが、1997 年には著者約 5,000 名、およそ 16,000 作品が収録されていると根拠を示さずに推定した<sup>7</sup>。この推定については、その後のサッバ（Sabba, Fiammetta）との共著においても「16,000 作品の約 5,000 名の著者のアルファベット順目録」と繰り返している<sup>8</sup>。

一方、サッバは 2012 年に発表した著書で、BV1 に収録された印刷本について B から M までの項目に収録された「印刷本 *liber impressus*」398 件を抽出してサンプル調査して、印刷本の印刷出版地、印刷出版業者について、具体的な収録点数と比率を図示した<sup>9</sup>。それによれば、主要な印刷出版地別では、バーゼル（Basilea）38%、ヴェネツィア（Venezia）18%、ケルン（Colonia）10%、シュトラスブルク（Strasburgo）10%、パリ（Parigi）9%、リヨン（Lione）8%、ヴィッテンベルク（Wittenberg）4%、フランクフルト（Francoforte）2%である。都市別の印刷出版者については、バー

ゼルでは業者名なしが23件、Robertus Winterが19件、Johannes Frobenが17件、Henricus Petrusが11件、Johannes Oporinusが10件、Johannes Hervagiusが10件、Johannes Bebelが7件など、ヴェネツィアでは、Aldus Manutiusが22件、業者名なしが18件、Octavianus Scotusが5件、Paulus Manutiusが1件などであるという。そして、全体では、(Venezia) Aldus Manutiusが22件、(Basilea) Robertus Winterが19件、(Basilea) Johannes Frobenが17件、(Lione) Sebastianus Gryphusが12件、(Basilea) Henricus Petrusが11件、(Basilea) Johannes Oporinusが11件、(Basilea) Johannes Hervagiusが10件、(Colonia) Johannes Gymnicusが10件などであるという<sup>10</sup>。

しかしながら、なぜBからMまでの項目に限ってサンプリングしたのか、項目数の多いAやPはなぜ除外したのか。また、なぜ全項目を対象にした調査を行わなかったのか。さらに「liber impressus」という記述のみを対象にしたのか。疑問は増すばかりである。実際、BV1には「liber impressus」とは記述されていない「印刷本」の情報も多数含まれているため、サツバの調査方法には大きな欠陥があろう。このようなサンプル調査のため、ゲスナーが行った印刷本の記述方法の特徴、収録された印刷本の範囲や印刷出版年の傾向等をまったく考慮できなかったため、単なる数字の列挙になってしまっていることも研究として中途半端であり問題があろう。

したがって、本稿では、ゲスナーがBV1全体でどれほどの印刷本の情報を収録したのか、そして印刷年と印刷地の範囲、主要な印刷者、著者別の収録点数、印刷本の記述の方法について、さらにゲスナーが記述した印刷本の情報を書誌情報データベースで検索して、ゲスナーの情報の正確性を考察して、ゲスナーが行った文献情報の収集と収録の特徴について明らかにしたい。

## 2. BV1に収録された印刷本の数量

ゲスナーは印刷本の書誌記述を行うために、当時流布していた印刷出版業者の印刷販売書目録を基礎にして書誌記述要素を確立した<sup>11</sup>。そして、印刷本について著者、編者、翻訳者、校訂者、注釈者名のもとに書名を挙げ、ラテン語の文章として印刷地、印刷者、印刷年、判型、シート数、cum (いわゆる with) 注記を順不同に記述した。その際、「imprimere (印刷する)」、*excudere* (作成する)、稀に「publicare (出版する)」という動詞およびその派生語を使用して印刷された本であることを明示した。例えば次のように記述されている。

ABHOMERON Abyenzoar scripsit opus in re medica impressum Venetijs Latine 1496. in fol. Chartas habet circiter 18. Libri 3. sunt.

(アブホメロン・アビンゾアル [=アベンゾハル] は、ヴェネツィアでラテン語にて二折判で1496年に印刷された医学に関する作品を書いた。それは約18シートであり、3書である。) (1r) (下線筆者)

Liber typis excusus Augustae Vindelicorum, 1515. in F. Terniones habet 22. id est chartas 66.

（書物はアウクスブルクで1515年に二折判で活字で作られた。それは3枚重ねが22〔折丁〕あり、すなわち66シートである。）（1r）（下線筆者）

一方、印刷出版事項を、「*ni fallor* 間違いない」、*opinor* 思う」という言葉を使って印刷事項を推定した例も多い。例えば、次のように記述されている。

\* *Baptistae Guarini de modo docendi liber, impressus in 4. Basileae, ni fallor.*

（バプティスタ・グアリーニが教授した態についての本は、間違いなくパーゼルで四折判で印刷された。）（130r）（下線筆者）

*GALFRIDVS Monemutensis scripsit de gestis regum Britanniae. Liber, opinor, impressus est.*

（ガルフリドゥス・モネムテンシス [=モンマスのジェフリー] はブリテン王の事績について書いた。本は印刷されていると思われる。）（264v）（下線筆者）

また印刷地を「*Germania*」、*Italia*」、*Gallia*」などという国名で大雑把に推定した例も少ない。

*BADERI de Eucharistia liber, impressus in Germania in 8.*

（バデルの聖体についての本、ゲルマニアで八折判にて印刷されたもの。）（127r）（下線筆者）

*GVILLERMI Tardiui Aniciensis rhetoricae artis, & oratoriae facultatis co<m>pendium, typis excusum in Gallia uel Italia, ut uidetur in 4. chartis 21.*

（ギヨーム・タルディフ・アニキエンシスの弁論術の技法と雄弁術の能力の提要はガッリアあるいはイタリアで活字で作成され、四折判で21シートであると思われる。）（294r）（下線筆者）

ゲスナーはこのような記述要素を全ての印刷本の記述に適用したというわけではなく、多くの場合にはその一部を採用したのであった。最も簡略な場合では、書名に続いて「*est impressus* 印刷された」とだけ書いている。

*GOTZADINI cuiusdam Consilia in iure, impressa.*

（ゴツァディーニのある「法律における決議」、印刷されたもの。）（277r）（下線筆者）

つまり、ゲスナーは実際に自分で確認した印刷本については一定の規則に従って書誌を記述していったが、現物からもあるいは印刷出版情報からも十分な書誌情報が得られなかった印刷本について

ては知り得た限りの書誌の要素を記述するほかなかった。なぜなら、当時はまだ印刷本に印刷出版事項が明記されていないものが少なくなく、また近代書誌学が確立する以前には不確かな情報について他の資料・情報から知ることは極めて困難であったからである。

したがって、今回の調査では、印刷本の記述については書誌がある程度同定できる可能性を持つものに限り、著者・書名に加えて、印刷地、印刷者、印刷年、内容注記、序文の引用のいずれか一つ以上の要素が記述されたものを抽出対象とした。たんに「印刷された」とか判型あるいはシート数のみの記述は除外した。この基準に準じて抽出することができた印刷本は、著者1,706名分で印刷本3,855件となる。後述するようにこの件数は物理的な書物の点数あるいは冊数ではない。

拙稿で示したように『万有書誌』に収録された著者名が約5,200名であることから<sup>12</sup>、印刷本が収録された著者は全体の32.8%に当たる。印刷本が収録された著者一人当たりでは2.3件となる。ところで、今回抽出対象としなかった単に「印刷された」と記述された本の情報を含めた全印刷本はおそらく5,000件を超えるであろうと推測している。全体のより詳細な数量については今後の課題としたい。

### 3. BV1 に収録された印刷本の範囲

BV1に収録された印刷本の記述のうち、印刷年を欠くものが1,173件、印刷地不明が103件であった（印刷者が明記されながら印刷地が表記されていないものを除く）。それらを除いて数量を算定した。まず、印刷年については1473年から1545年までの範囲にある。

1473年の印刷年が記述された書物は次の2件である。

\* *Huius authoris [= Franciscus de Platea] liber de Censura ecclesiastica, & alius de usuris, impressi sunt Patauij, anno 1473. (257v)*（下線筆者）

*PETRI Comestoris historia scholastic, impressa anno 1473. in magno fol. apud Gintherum Zainer, cum iuxta ordinem librorum & capitam. (547v)*（下線筆者）

これら2件の印刷本については15世紀印刷本のデータベース *Incunabula Short Title Catalogue (ISTC)*<sup>13</sup> で検索することができる。それによれば前者は書誌番号 ip00753000 のデータと一致し、Platea, Franciscus de. *Opus restitutionum, usurarum, excommunicationum. Padua: Leonardus Achates de Basilea, [not after 28 July] 1473. f°* という書誌情報を得ることができる。ちなみに、この版はわが国では一橋大学社会科学古典資料センターで所蔵されている<sup>14</sup>。後者は ip00458000 のデータと一致し、*Petrus Comestor. Historia scholastica. [Augsburg] : Günther Zainer, 1473. f°* である。ゲスナーによる本書の記述が極めて正確であることがわかる。つまり、ゲスナーは現物を見て記述したことが判明する。

ところが、BV1 では印刷年の誤植も多数散見されるため、それらを修正して5年毎の統計を表1に示す。

1515年までは件数は2ケタで少量であるが、1516年以降は149件に増加し、1526年からは306件に急増して、1536-40年には719件でピークに達する。とりわけ、1526年以降の同時代に刊行された文献を多数参照していたことが判明する。表1から、ゲスナーは過去70年以上の間に印刷出版された印刷本の情報を収録していたことが理解できよう。

前述のように、16世紀前半までの印刷本には必ずしも刊記が備わっていたわけではない。特に15世紀印刷本では印刷事項は奥書に示される場合がほとんどであったが、全体の半数には奥書がなく印刷事項が不明確であった。したがって、ゲスナー自身が印刷事項を知ることができなかった印刷本が実際には相当数あったことを考慮すると、表1に示した数字の中にも正確な記述ができなかったものが多数存在するはずである。

次に主要な印刷地の統計を表2に示す。バーゼルの印刷本が全体の3割以上を占めており31.5%となる。ヴェネツィアがそれに次いで13.7%、次にパリで9.8%、さらにリヨン8%、ケルン7.4%、シュトラスブルク6.5%と続く。それ以下では、チューリヒ2.2%、アゲノー（ハーゲナウ）とニュ

表1 印刷年代別の収録件数

印刷年代	印刷本件数
1473-75	6
1476-80	6
1481-85	17
1486-90	18
1491-95	43
1496-1500	62
1501-05	62
1506-10	52
1511-15	86
1516-20	149
1521-25	157
1526-30	306
1531-35	466
1536-40	719
1541-45	533
印刷年不明	1,173
合計	3,855

印刷年代別の収録件数

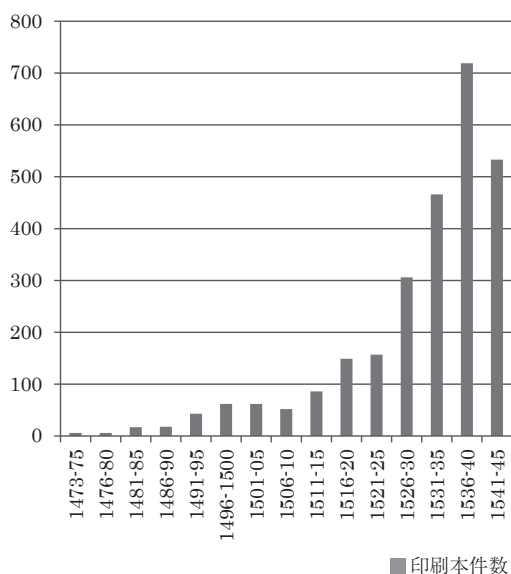


表2 主要な印刷地別の印刷本件数

『万有書誌』の表記	都市名	印刷本件数	比率%
Argentinae, Argentorati	Strassburg	250	6.5
Basileae	Basel	1,214	31.5
Coloniae	Köln	286	7.4
Florentiae	Firenze	24	0.6
Francofordiae, Francfurdiae, Francoforti	Frankfurt am Main	55	1.4
Haganoae	Hagauenau	60	1.6
Ingolstadij	Ingolstadt	22	0.6
Lugduni	Lyon	307	8.0
Marpurgi, Marpurgi Hessorum	Marburg	27	0.7
Moguntiae, Moguntiae ad Rhenum	Mainz	28	0.7
Norimbergae	Nürnberg	63	1.6
Parisijs, Lutetiae	Paris	379	9.8
Romae	Roma	36	0.9
Tiguri	Zürich	83	2.2
Tubingae	Tübingen	20	0.5
Venetijs	Venezia	527	13.7
Vuitenbergae, Vuitenbergae	Wittenberg	36	0.9
Germania	Germany	47	1.2
Italia	Italy	22	0.6

ルンベルクがそれぞれ1.6%、フランクフルトが1.4%、アウクスブルク1.2%となり、最初の6都市とは大きな差がある。サツバが主要都市として挙げたヴィッテンベルクはローマと共に0.9%に過ぎなかった。このように、当時各地域に発達した印刷出版中心地で刊行された書物が上位を占めていることが明らかになった。

バーゼルが特に顕著であった理由は、ゲスナーがチューリヒ出身で、1540年にはバーゼル大学で学んで医学博士号を取得したことと、その後自著をバーゼルで出版するなど印刷出版関係者と親交があったことが挙げられよう。また、バーゼルにはエラスムスが滞在し、Froben印刷所から著作を多数刊行したことから、この地で学問が隆盛となり、科学書やギリシア・ラテン古典および人文主義書が盛んに出版された。さらに、バーゼルでは宗教改革文献の出版が盛んになったことも重要であろう。

一方、ヴェネツィアは当時ヨーロッパ最大の印刷都市であり、とりわけ古典と人文主義書に秀でており、ヨーロッパ中にヴェネツィアの印刷本が販売されたことで、ゲスナーの時代のヨーロッパの学者、学生、教養人はヴェネツィアの印刷本に親しんでいたはずである。特に、より正確なギリ



シア語書を印刷することを目的に1494年にヴェネツィアに印刷所を設立したアルド・マヌーツィオ（Manuzio, Aldo, ca. 1450-1515）によって刊行された古典と人文主義書はギリシア語を専攻したゲスナーにも絶大な影響を与えたはずである。ゲスナーは1543年夏にヴェネツィアに滞在して<sup>15</sup>、文献情報の収集を行ったことも大きな影響があろう。

パリでは16世紀前半にジョス・バード（Bade, Josse, ラテン語名 Jodocus Badius Ascensius, 1462-1535）、アンリ・エティエンヌ（Estienne, Henri, ca. 1470-1520）、シモン・ド・コリーヌ（Colines, Simon de, ca. 1475-1546）、アンリ・エティエンヌの息子ロベール・エティエンヌ（Estienne, Robert, 1503-59）などの人文主義印刷家が活躍して、印刷出版業が極めて盛んとなり、ヴェネツィアをしのぐ優れた古典、人文主義書が刊行された。ゲスナーは1534年に一時パリ大学の図書館で書物に耽溺しており、パリの印刷出版情報に多大な関心をもっていたとみなされる。

また、リヨンの印刷本についてはジュネーヴを通じてスイスに流入していた。ケルンは15世紀ドイツ最大の印刷都市であり、ライン川の河川交通を通じてフランクフルト・アム・マイン、シュトラスブルクを経てバーゼルと結ばれていた。ゲスナーはパリからシュトラスブルクに避難して、そこでヘブライ語を学んだことで、シュトラスブルクの印刷本についてもよく知っていたと考えられる。

次に、印刷地の地理的な範囲を検討すると、上記の印刷出版中心地を主として、北東ではバルト海沿岸のリトアニアのヴィリニュス（Vilnae）（1件）<sup>16</sup>、東ではポーランドのクラクフ（Cracouiae）

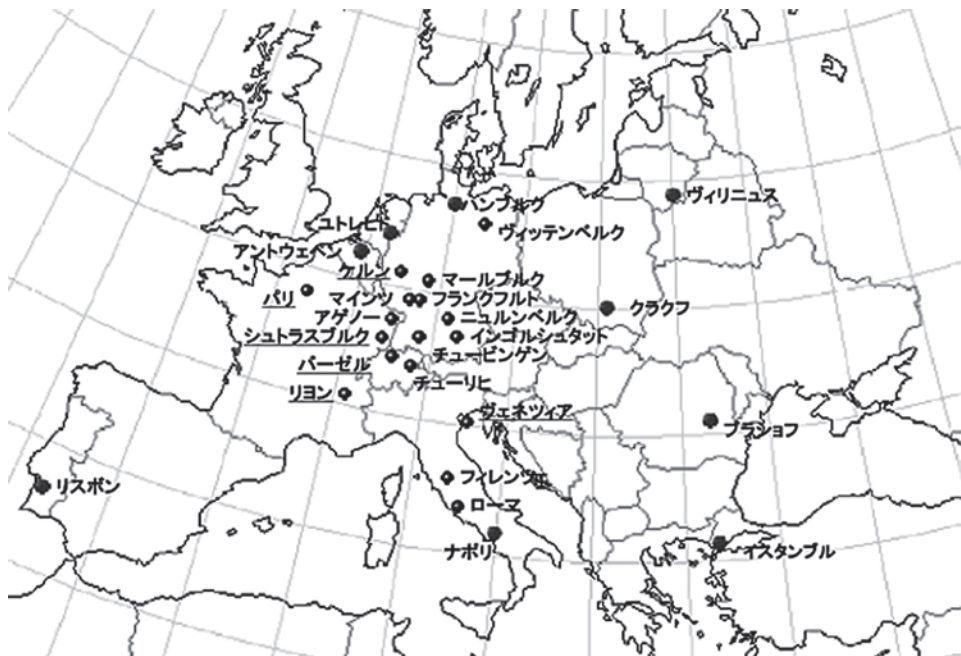


図1 『万有書誌』に収録された印刷本の印刷地の範囲（下線の都市は主要な印刷地）



(4件)<sup>17</sup>, ルーマニアのブラショフ (Corona urbe Trasyluanae) (1件)<sup>18</sup>, 南東ではトルコのコンスタンティノーブル (Constantinopoli) あるいはイスタンブル (1件)<sup>19</sup>, 南ではイタリアのナポリ (Neapoli) (8件)<sup>20</sup>, 西ではポルトガルのリスボン (Olyssponae) (2件)<sup>21</sup>, 北西では低地地方のユトレヒト (Traiecti) (1件)<sup>22</sup>, 北ではドイツのハンブルク (Hamburgi) (3件)<sup>23</sup> に及んでいる。つまり、スカディナヴィア, 英国, スペインを除くヨーロッパ各地の印刷出版情報がゲスナーのもとに確実に届いていたことになる<sup>24</sup>。なお, スペインの印刷本が収録されずに, ポルトガルの書物が含まれていたことについては疑問が残るため, 今後の調査で問題を解明したい。印刷物の情報源として印刷業者の印刷販売書目録やフランクフルト書籍大市, 各地の知人からの報知などしかなかった時代に, このように広範囲な印刷出版物の情報を収集できたことは驚嘆に値しよう。

#### 4. 主な印刷業者について

ゲスナーが収録した印刷本の印刷業者にはどのような特徴があるのであろうか。BV1には印刷出版者名が明記されていないものが1,406件ある。それらを除外して主要な印刷地の主要な印刷者を列挙すると表3のようになる。

この表で明らかのように, 最も多数収録された印刷本の印刷者はバーゼルのペトリ印刷所 (Petri, Adam, ca.1454-1527 & Petri, Heinrich, 1508-79) であり194件に達する。ちなみに, 前述のようにサッパのサンプリングではわずか11件である。ペトリ印刷所からは, ギリシア・ラテン古典, 人文主義者著作, マルチン・ルター (Luther, Martin, 1483-1546) やフィリップ・メランヒトン (Melancthon, Philipp, 1497-1560) 等による宗教改革書, さらにアダム・ペトリの寡婦アンナ (Anna) がヘブライ学者ゼバスティアン・ミュンスター (Münster, Sebastian, 1489-1552) と再婚したことで, ミュンスターがハインリヒの継父となったため, ミュンスターのヘブライ語研究書や世界誌などの著作が多数刊行された<sup>25</sup>。バーゼルではその他, ロベルト・ヴィンター (Winter, Robert) が171件, フローベン父子 (Froben, Johann, ca.1460-1527 & Froben, Hieronymus, 1501-63) が166件, ヨハネス・オポリヌス (Oporinus, Johannes, 1507-68) が90件, アンドレアス・クラタンデル (Cratander, Andreas, ca.1485-ca.1540) が89件, ヨハン・ヘアヴァーゲン (Herwagen, Johann) が67件, ヨハネス・ベベル (Bebel, Johannes) が50件と続く。あたかもバーゼルの印刷業の活況を反映しているかのようである。しかしながら, これらの業者の中で頻繁に記述したヴィンターとクラタンデルについては, ゲスナーはBV2-1およびBV2-2でその活動を記録していない。

次にヴェネツィアである。アルド・マヌーツィオとその後継者への言及が193件と多数である。ゲスナーはギリシア・ラテン古典文献へ言及する箇所が多くで簡略だがアルド版を筆頭に挙げている。ギリシア語書の優れた版を出版したアルド印刷所に対するゲスナーの尊敬の念が十分にうかがわれる。前述のサッパはアルド・マヌーツィオとその子パオロ・マヌーツィオ (Manuzio, Paolo, 1512-74) を分けてそれぞれ22件と1件としているが, BV1全体を通して見れば「アルドゥス

表3 主要な印刷都市の印刷者のうち『万有書誌』に多数収録された印刷者（網かけの印刷者は『総覧』、『神学の部』の各分類冒頭で顕彰された印刷者。\*は『総覧』、『神学の部』に印刷販売書目録が掲載された印刷者）

都市名	『万有書誌』の表記	印刷者名	印刷本件数
Basel	Adamus Petrus Henricus Petrus	Adam Petri Heinrich Petri	194
Basel	Robertus Vuinter	Robert Winter	171
Basel	Ioannes Frobenius Hieronymus Frobenius	Johann Froben Hieronymus Froben *	166
Basel	Ioannes Oporinus	Johannes Oporinus	90
Basel	Andreas Cratander	Andreas Cratander	89
Basel	Ioannes Heruagius	Johann Herwagen	67
Basel	Ioannes Bebelius	Johann Bebel	50
Basel	Michael Isingrinus	Michael Isengrin	28
Basel	Hieronymus Curionus	Hieronymus Curio	20
Basel	Nicolaus Brylinger	Nicolaus Brylinger	20
Venezia	Aldus Munutius Aldi heres Paulus Manutius	Aldo Manuzio * Andrea Torresani Paolo Manuzio	193
Venezia	Octavianus Scotus Hieronymus Scotus	Ottaviano Scoto Girolamo Scoto	42
Venezia	Luc. Antonius Iunta	Lucantonio Giunta	10
Paris	Chritianus Vuechelus	Chrétien Wechel *	75
Paris	Henricus Stephanus Robertus Stephanus	Henri Estienne Robert Estienne	48
Paris	Simon Colinaeus	Simon de Colines	37
Paris	Iod. Ascensius	Jodocus Badius Ascensius (Josse Bade)	37
Lyon	Sebastian Gryphius	Sébastien Gryphius *	151
Lyon	Frellaeus	Jean Frellon *	12
Köln	Ioannes Gymnicus	Johann Gymnich *	83
Köln	Eucharus Ceruicornus	Eucharus Cervicornis	33
Köln	Petrus Quentel	Peter Quentell	26
Köln	Ioannes Soter	Johannes Soter	23
Strassburg	Vuindelinus Rihelius	Windelin Rihel	32
Strassburg	Cratonus Mylius	Craton Mylius	22
Strassburg	Ioannes Schottus	Johann Schott	16
Zürich	Froschouerus	Christoph Froschauer *	50
Frankfurt am Main	Egenolphus	Christian Egenolff	29
Nürnberg	Ioannes Petreius	Johannes Petreius	31
Hagauenau	Ioannes Secerius	Jean Secerius	29

Aldus」とのみ記述するケースが多く、その場合にはアルド、その後継者であるアンドレア・トルレーザニ（Torresani, Andrea, 1452-1529）、あるいはアルドの子パオロが刊行したどの版であるか区別していないことがある。実際、アルド没後にトルレーザニが刊行した版も印刷者が「Aldus アルドゥス」となっているため、全体を「アルド版」としてまとめたほうが合理的であろう。193件はそれを確認した上での数字である。次は、ヴェネツィアの大手出版業者スコット父子（Scoto, Ottaviano & Girolamo）が42件である。これら両者にはBV2-1でゲスナーによって讃辞が送られた。同じく讃辞が送られたルカントニオ・ジュンタ（Giunta, Lucantonio, 1457-1538）の印刷本についての言及はなぜか僅少（10件）である。

次はパリである。クレティアン・ウェシエル（Wechel, Chrétien, 1495-1554）の記述が多く75件であった。次に前述のエティエンヌ父子で48件である。ゲスナーはウェシエルとエティエンヌに讃辞を捧げ、彼等の印刷販売書目録を引き写している。続いてシモン・ド・コリーヌとジョス・バードでそれぞれ37件となる。これらのパリの印刷業者はギリシア・ラテン古典の印刷に優れ、人文主義者の著作を多数刊行した。特にロベール・エティエンヌは16世紀前半パリの印刷出版業の黄金時代を築いたことで広く知られている。

続いてリヨンではセバスティアン・グリフィウス（Gryphius, Sébastien, 1493-1556）の印刷本が圧倒的多数で151件となる。グリフィウスはラテン古典書を中心に幅広い印刷活動してリヨンの印刷業界の中心人物となった。次はジャン・フレロン（Frellon, Jean）が12件である。フレロンはゲスナーによって讃辞が捧げられ、目録が引き写された印刷業者であるが、ジュンタに次いで少ない言及であった。

ケルンではヨハン・ギムニヒ（Gymnich, Johann, ca.1485-1544）が83件で一番多く、次にオイカリウス・ツェルフィコルン（Cervicorn, Eucharius）が33件、続いて15世紀以来の有力印刷業者ペーター・クヴェンテル（Quentell, Peter）が26件であった。さらに、ヨハネス・ゾーター（Soter, Johannes）が23件である。これらのうちゲスナーが讃辞を捧げた業者はギムニヒのみである。

シュトラスブルクではヴィンデルリン・リヘル（Rihel, Windelin）が32件で一番多いが、特に頻繁に言及された業者はいない。ミリウス・クラトン（Craton, Mylius）が22件、ヨハン・ショット（Schott, Johann）が16件であった。ゲスナーはリヘルにのみ讃辞を捧げている。

ゲスナーの地元チューリヒについては、16世紀のチューリヒ印刷業を一手に担ったクリストフ・フロシャウアー（Froschauer, Christoph, ca.1490-1564）が50件であった。フロシャウアーはゲスナーと共にフランクフルトの大市に出かけたことがあり、ゲスナーは若い頃より親しかった人物である。彼はゲスナーの著作の大半を刊行し、またゲスナーは1543年にフロシャウアーの印刷書目録を作成している<sup>26</sup>。

その他、フランクフルト・アム・マインの有力な業者クリスティアン・エーゲノルフ（Egenolff, Christian, 1502-55）が29件、ニュルンベルクでコペルニクス『地球の回転について』を刊行したヨハン・ペトレイウス（Petreius, Johannes, ca. 1497-1550）が31件、アゲノーのジャン・セセリウ

ス（Secerius, Jean）が29件であった。ペトレイウスについてはBV2-1でゲスナーは讃辞を表明している。

表3で明らかのように、これらの業者の大半は、ゲスナーによってBV2-1とBV2-2の各分類の冒頭で言及されてその活動が紹介された。そのうち6業者については印刷販売書目録が引き写されていた<sup>27</sup>。彼等はギリシア・ラテン古典をはじめとする人文主義書を多数刊行していたことから、ゲスナーは彼等の印刷本から多大な影響を受けていたといえる。しかしながら、ゲスナーが讃辞を捧げたニュルンベルクのヨハン・フォム・ベルク（Berg, Johann vom）とウルリヒ・ノイベルト（Neubert, Ulrich）の印刷本の記述は見つけることができなかった。つまり、ゲスナーはBV1を編纂するにあたり、これらの業者の印刷本の情報を中心に収集しながら、それらに限ることなく、さらに広い範囲から情報を集めて、現物を可能な限り閲覧して、BV1の主要な要素となる印刷本の書誌を作成したといえる。

## 5. 収録された印刷本の著者について

本書において多数の印刷本が収録された著者の著作の書誌記述要素の件数を表4によって比較してみよう。

表4に示された著者には宗教改革者が多く含まれる。最多はメランヒトンで39件であった（556v-559r）。メランヒトンの著作の説明は1541年バーゼル刊行の全集に基づいて行われているが、

表4 印刷本が多数採録された主要な著者とその書誌記述要素の件数

著者名	掲載箇所	印刷本 件数	印刷地	印刷者	印刷年	判型	シート 数	内容 注記	序文 引用
Philipp Melancthon	556v-559r	39	38	29	30	13	14	2	3
Martin Luther	501v-505v	37	26	11	37	32	29	3	5
Johannes Oecolampadius	442r-445r	29	28	24	27	26	21	1	6
Sebastian Münster	593v-595r	28	26	22	26	22	19	0	2
Agostino Nifo	105v-109r	27	27	2	25	24	19	2	17
Juan Luis Vives	430v-434r	25	24	18	21	18	16	7	12
Christoph Hegendorff	165v-166r	21	21	18	16	17	10	2	0
Joachim Camerarius	373v-375r	21	21	15	18	17	12	2	4
Thomas Aquinas	615v-617r	20	19	9	19	16	4	1	1
Guillaume Budé	287r-288v	19	19	15	15	12	5	1	2
Heinrich Bullinger	303v-307r	18	18	17	18	17	16	1	9
Jean Calvin	395v-396v	17	17	7	11	8	6	1	1
Andrea Alciato	37v-38v	16	15	10	12	11	5	0	2
Giorgio Valla	272v-273r	15	15	11	6	7	1	0	0

そこに収録された個々の作品の初版あるいは個別の版を簡略に記述して列挙している。全集自体の内容と序文の引用が行われているため、個別の版の内容及び序文については言及されていない。全集に基づいて著作を解説している例はアリストテレス (Aristoteles) (72v-91v), アウグスティヌス (Augustinus, Aurelius) (112v-124v), エラスムス (Erasmus, Desiderius, 1466-1536) (197v-204r), ツヴィングリ (Zwingli, Huldrych, 1484-1531) (343v-350r) などに見られ、いずれも長大な記述がなされているが、収録された個々の作品の個別の印刷事項を付与した例はない。メランヒトンの場合のみ見られるユニークな記述方法である。

次に多数収録されたのがルターの37件である (501v-505v)。1545年にはルターの全集はまだ刊行されていなかったため、ゲスナーは1520-44年にバーゼル、ケルン、ヴィッテンベルグなどで刊行された聖書注解書を中心に採録したが、印刷者が記載された書誌は多くない。

次は29件が採録されたエコランパディウス (Oecolampadius, Johannes, 1482-1531) (442r-445r) である。彼はバーゼルで活躍した宗教改革者である。したがって、ゲスナーが収録した彼の印刷本は1518-44年の間にバーゼルで刊行されたものがほとんどある。印刷事項、判型、シート数が記述されているが、内容注記はすくない。

次は28件が収録されたゼバスティアン・ミュンスター (593v-595r) である。彼はバーゼル大学のヘブライ語教授となり、前述のようにペトリ印刷所のハインリヒの継父となったことから、ペトリとフローベンの両印刷所から著作が刊行された。書誌記述は印刷事項、判型、シート数が概ね記述されたが、内容注記、序文引用は僅かである。

続いて27件が収録されたアゴスティノ・ニーフォ (Nifo, Agostino, ca.1469/70-between 1539 and 46) である (105v-109r)。彼はイタリアの哲学者で、アヴェロエス (Averroes, Ibn Rushd, 1126-98) を通してアリストテレス哲学を研究した。ゲスナーによるニーフォの印刷本の記述には大変顕著な特徴がある。それは27件中19件が1519-37年にヴェネツィアで刊行されたもので、印刷者名は示されないが、印刷年、判型、シート数が記述され、さらにそのうち17件では序文が数行にわたって引用されていることである。まるで現物を目の前に置いて1冊ずつ記述を行ったような一定のリズムがある。

一方、ファン・ルイス・ビベス (Vives, Juan Luis, 1492-1540) の著作の記述は25件であるが (430v-434r)、ここではバーゼル版13件、ケルン版3件、リヨン版5件、パリ版2件、ブルッヘ版1件となり、バーゼル版については印刷事項、判型、シート数、序文の引用がきっちりと行われたが、他の印刷地の刊行物はそれほど詳しくない。

ビベスより下では、ヘーゲンドルフ、プリンガー、カルヴァンが宗教改革者であることから、ゲスナーの宗教改革への関心の高さがうかがわれよう。また、ここに列挙された14名のうちトマス・アクイナスを除いて16世紀の著述家であるということは偶然ではなく、ゲスナーの学問的関心のありようを示している。

これらの調査によって、内容注記と序文の引用の頻度に著しく差があることが判明する。ビベス

の著作については内容注記と序文の引用が比較的多いが、ニーフォでは内容注記は少ないが、序文の引用は最も多い。ところが、ミュンスターでは内容注記も序文の引用もほとんど行なわれなかった。

印刷地との関係では、ビバスの著作はバーゼルの印刷本を中心とするが、その他の印刷地の印刷本についてはゲスナーにとっては現物を確認するのは容易でなかったようだ。ニーフォの著作はヴェネツィア刊行が大半であり、ゲスナーはそれらを眼の前に置いて記述しているように思えるが、なぜか印刷者の記述をほとんどしていない。ところが、ミュンスターの著作はバーゼル刊行であるため、ゲスナーは現物確認が容易であったはずであるが、内容注記、序文の引用についてはあまり熱心ではなかった。

## 6. ゲスナーの記述の特徴について

ここでゲスナーの記述の特徴について検討してみよう。前述したように、ゲスナーの書誌記述はかなり正確な点が多いが、情報が不確かなものについては記述が簡略となっている。そこで、前述したミュンスター、ニーフォ、ビバスのいくつかの著作を例にして、ゲスナーの記述と16世紀印刷本のデータベースに登録された書誌記述とを比較してみよう。

表5 ゲスナーの書誌記述の正確性（下線は一致する記述；VD16に記述された改行の位置を示す||は便宜的に削除）

著者名	No.	ゲスナーの書誌記述	データベースの記述
Münster, Sebastian	1	593v <u>Horologiographia, uel horologiorm composition, recognita &amp; aucta, adiectis multis nouis descriptionibus &amp; figuris, in plano, concauo, conuexo, erecta super ficie &amp;c. Hen. Petrus excudit Basileae, 1533. in 4. cum indice, chartis 49. In praefatione uaria horologiorum genera enumerate: inde subnectitur catalogus capi tum totius libri, numero 51.</u> (49×4×2=392 pp.)	VD16, M 6652 H O R O L O G I O    G R A P H I A, P O S T P R I O R E M A E D I T I O N E M P E R S E B A S T. M V N S T E R V M r e c o g n i t a, & p l u r i m u m a u o t a a t # [ q u e ] l o c u p l e     t a t a, a d i e c t i s m u l t i s n o u i s d e s c r i p t i o n i b u s & f i g u r i s, i n p l a n o, c o n c a u o, c o n u e x o, e r e c t a s u p e r f i c i e & c. B A S I L E A E E X C V D E B A T H E N R I C V S P E T R V S. ( M E N S E A V G V S T O, A N N O M. D. X X X I I I. ) [28] Bl., 334 S., [1] Bl. : TH., H., D. ; 4 (28×2+334+1×2=392 pp.)
	2	593v <u>Organum Vranicum, in quo explicantur theorocae omnium planetarum: atq&lt;ue&gt; eorundem singuri &amp; quotidiani motus, ad annos usq&lt;ue&gt; centum &amp; ultra exprimuntur: Lunae quoq&lt;ue&gt; in lumine crescentis, senescentis, &amp; per eclipsim deficientis: item Solis deliquium patientis omnis uarietas: quibus omnibus commodi adiecti sunt canones. Opus ibid. [= Basileae Hen. Petro] excusum, 1536. in fol. chartis 29.</u> (29×2×2=116 pp.)	VD16, M 6726 O r g a n u m V r a n i c u m. S E B A S T I A N V S M V N S T E R V S. H A B E S I N H O C L I B R O, A M I C E L E C T O R, E X P L I C A T A S T H E O R I C A S O M N I V M p l a n e t a r ū, a t # [ q u e ] e o r u n d e u a r i o s, s i n g u l o s & q u o t i d i a n o s a d a n n o s u s # [ q u e ] c & u l t r a e x p r e s s o s m o t u s ... B A S I L E A E A P V D H E N R I C V M P E T R V M M E N S E M A R T I O, A N N O M. D. X X X V I. [4] Bl., 70 S., [19] Bl. TH., H. ; 2 (4×2+70+19×2=116 pp.)



著者名	No.	ゲスナーの書誌記述	データベースの記述
Münster, Sebastian	3	594r <u>Composita uerborum &amp; nominum Hebraicorum, opus Romae Elia Leuita auctore aeditum, &amp; nuper à Sebastiano Munstero translatum, Hebraicae linguae studiosis necessarium. Io. Frobenius excudit, 1525. in 8. chartis 10. &amp; dimid.</u> (10.5×8=84 leaves)	VD16, E 1000 #=H <u>COMPOSITA VERBORVM &amp; nominum Hebraicorum. Opus uere insigne at# [que] utile: Hebraicae Grāmaticae studiosis in primis necessariū, Romae Elia Leuita auctore aeditum, &amp; nuper per Sebastianum Munsterū Latinitate donatum. BASILEAE AN.M.D.XXV. mense Nouemb. (IOAN. FROB.)</u> [84] Bl. : D. ; 8 (84 leaves)
Nifo, Agostino	1	105v <u>Translatio &amp; expositio libri Aristotelis de interpretatione. Opus excusum Venetijs, anno 1537. in fol. chartis 16.</u> (16×2=32 leaves)	EDIT16, CNCE 33381 <u>Aristotelis Perihermenias hoc est De interpretatione liber a magno Augustino Nipho philosopho Suessano interpretatus &amp; expositus.</u> (Venetijs : apud Octauianum Scotum, 1537). 32 c. : ill. ; fol. (32 leaves)
	2	105v <u>Commentatria in duos libros priorum resolutiorum: impressa Neapoli 1526. in fol. chartis 90.</u> (90×2=180 leaves)	EDIT16, CNCE 36180 Augustini Niphi Medices philosophi Suessani Prioristica comentaria. <u>Impressa Neapoli : per solertissimum artis impressorie virum dominum Euangelistam Papiensem heredem condam. Sigismundi Mayr Theutonicus, 1526 pridie Idus Martii.</u> [4] , CLXXXII c. : ill. ; fol. (4 + 182 = 186 leaves)
	3	105v <u>Expositiones in libros de sophisticis elenchis, cumtextu recognito, &amp; ab ipso interpretato: impressae Venetijs in fol. anno 1534. chartis 36.</u> (36×2=72 leaves)	EDIT16, CNCE 33356 <u>Expositiones magni Augustini Niphi Medices philosophi Suessani in Libros de Sophisticis. Elenchis Aristotelis. Cum textu recognito, &amp; ab ipso auctore interpretato. Opus quidem prenecessarium ac utile ad importunitates sophisticas fugiendas. Nuper maxima cura ac diligenti studio in lucem editum.</u> Venetijs : apud Octauianum Scotum, 1534. 72 c. ; fol. (72 leaves)
Vives, Juan Luis	1	431r <u>In Bucolica Virgilij interpretatio, potissimu&lt;m&gt; allegorica: impressa Basileae apud Rob. Vvinter in 8. chartis 7. &amp; dimid. Anno 1539.</u> (7×8×2=112 pp.)	VD16, V 1870 LINGVAE LATINAE EXERCITATIO, IO. LODO. VIVIS VALENTINI. Libellus ualde doctus et elegans, nuncq; denuò in lucem editus. EIVSDEM, <u>In Vergilij Bucolica expositio, potissimum allegorica.</u> BASILEAE. (IN OFFICINÀ ROBERTI VVINTER, MENSE Iulio. Anno M. D. XXXIX.) 339, [1] S., [18] Bl. : D. ; 8 339 + 1 + 18×2 = 376 pp.

著者名	No.	ゲスナーの書誌記述	データベースの記述
Vives, Juan Luis	2	431r In <u>Somnium Scipionis praefatio</u> , quam similiter <u>Somnium: &amp; Enarratio</u> , quam inscripsit <u>Vigiliam. Ioan. Frobenius</u> excudit Basileae, 1521. in 4. chartis 19. (19×4×2=152 pp.)	VD16, V 1942 IOANNIS LODOVICI VIuis Valentini <u>Somnium. Quae est praefatio ad Somnium Scipionis Ciceronis. Eiusdem Vigilia. Quae est enarratio Somnij Scipionis Ciceronis. Et alia nonnulla ...</u> IN INCLYTA <u>BASILEA. (EX AEDIBVS IOANNIS FROBENII MENSE MARTIO ANNO M.D.XXI.)</u> 154 S., [1] Bl. : TE., D. ; 4 (154 + 1×2 = 156 pp.)
	3	431v-432r <u>De anima &amp; uita libri tres, opus insigne nunc primum in lucem aeditum, anno 1538.</u> Basileae apud Rober. Vvinter in 8. chartis 40. cum <u>Indice copioso</u> :  deinde rurfus apud eundem in 8. cum <u>Philil. Melanchthonis &amp; Cassiodori opinor scriptis de anima.</u>	VD16, V 1802 IOANNIS LODOVICI VIVIS VALENTINI, <u>DE ANIMA ET VITA Libri tres. Opus insigne, nunc primum in lucem editum.</u> Rerum et uerborum in ijsdem memorabilium copiosissimus Index. <u>BASILEAE. (IN OFFICINA ROBERTI VVINTER, ANNO M. D. XXXVIII. mense Septembri.)</u> [4] Bl., 264 S., [24] Bl. : D. ; 4 (4×2 + 264 + 24×2 = 320 pp.)  VD16, V 1803 IOANNIS LODOVICI VIVIS VALENTINI <u>DE ANIMA ET VITA LIBRI TRES, Opus insigne, nuncq; denuo quàm diligentissimè excusum. Accesserunt eiusdem argumenti de Anima, PHILIPPI MELANCHTHONIS Commentarius, &amp; MAGNI AVRELII CASSIODORI Senatoris Liber unus. Rerum et Verborum in ijsdem memorabilium copiosissimus Index.</u> <u>BASILEAE, APVD ROBERTVM VVINTER, ANNO MDXLIII.</u> 768 S., [16] Bl. ; 8 (768 + 16×2 = 800 pp.)

Münster 1 ではゲスナーの記述とドイツ 16 世紀印刷本のデータベース *Verzeichnis der im deutschen Sprachbereich erschienenen Drucke des 16. Jahrhunderts* (VD16)<sup>28</sup> における記述は多くの点で一致した記述が見られる。データベースと比較するとゲスナーは印刷本のタイトルページの記述から語句を選択して記述していることがよくわかる。ちなみに、「*aucta* (増大した)」という語句をゲスナーは正確に綴っているが、VD16 ではそれを「*auota*」と誤記している。刊記についてはむしろゲスナーは自身の規則に従って記述しようとしているため、「*EXCVDEBAT HERICVS PETRVS* (ヘンリクス・ペトルスが作成していた)」を「*Hen. Petrus excudit* (ヘンリクス・ペトルスが作成した)」と変更している。印刷年についてはローマ数字をすべて算用数字に変更している。判型とページ数は一致する。

Münster 2でも1と同様なタイトルの記述を行いながら、逆にVD16では省略された部分（…以下）についても記述している。ここには本書の内容が書かれていることがゲスナーの記述から判断できる。刊記については印刷地と印刷者を「*ibid.*（同上）」として省略している。このような省略はBV1全体を通じて頻繁に行われている。ここでも判型とページ数が一致する。

Münster 3はVD16で全文がデジタルデータで見られるため詳しく確認できる。タイトルページの1行目は実際にはヘブライ語で記述されているため、VD16では「# = H」（ヘブライ語の記述）と示されるが、ゲスナーはそれを省いて2行目のラテン語から記述していることがわかる。そして、ゲスナーは4行目最初の言葉「Opus（作品）」で止めて、5行目まで省いて、本書の著者であるElia Leuitaを明記し、続いてミュンスターによるラテン語訳を示した。刊記ではゲスナーはなぜか印刷地Basileaeを記述せずに印刷者を示したが、実際にはタイトルページには印刷地と印刷年月が明記され、印刷者名はない。その代わりに印刷者の商標が掲げられている。商標はタイトルページだけでなく巻末ページにも印刷され「IOAN. FROB.」と印刷者の略名が示されている。ゲスナーはこの商標で判断していた。判型とページ数は一致する。実は、VD16では著者名はEliyahū Ba.hurであり、ミュンスターは訳者となる。ゲスナーはそれを踏まえながらここではミュンスターの翻訳書として収録し、同時に著者ELIAS Leuita Iudaeusの項目でこの作品を同様な記述で収録している。

Composita uerborum & nominum Hebraicorum, opus aeditum Romae, & nuper per Sebast. Munsterum Latinitate donatum, Heraicae linguae studiosis necessarium. Excusum Basileae apud Ioannem Frobenium, 1525. in 8. chartis 10. & dimid. (219r)

つまり、ゲスナーは同じ作品を著者と訳者の両方の項目で収録しているのである。すなわち、訳者名で副出したということになる。

Nifo 1では、イタリア16世紀印刷本のデータベースであるEDIT 16<sup>29</sup>の書誌記述と比較した。ゲスナーの記述はタイトルがずいぶん簡略になりアリストテレスのどの作品の訳注かがわからない。また、印刷者名を記載していないが、印刷地と印刷年、判型と葉数は一致している。

Nifo 2では、ゲスナーはタイトルページにある著者名の記述を略して書名を記述し、巻数と「priorum resolutiorum（分析論前書の）」という注釈対象を補記している。巻数はタイトルページには記述されていないため、ゲスナーが独自に調査したものであろう。刊記についてはタイトルページでは長い記述があるが、ゲスナーはそこから印刷地と印刷年のみを記載した。判型は一致するが、葉数は一致していない。ゲスナーの調査が不十分であったようだ。

Nifo 3ではタイトルの記述では一致する部分が多く、ゲスナーが「Opus」以下の記述を省いたとみてよいであろう。刊記では前2者同様に印刷地と印刷年を記載した。

Vives 1はビベスのラテン語実用書である。ゲスナーの記述から判断して、タイトルページの最

後の部分のウェルギリウス『牧歌』の注釈を記載したことが判明する。印刷地、印刷者、印刷年、判型は一致するが、ページ数に大きな違いが見られる。全体のページ数は376ページとなるが、ゲスナーの記述からは112ページとなる。おそらく、ゲスナーはウェルギリウス『牧歌』注釈の部分のページ数を記載したのであろう。つまり、ゲスナーは1書の中から構成部分を出して記載したということになる。ところが、ゲスナーは本書の記述の直前に次のような印刷本を記述している。

Latinae linguae exercitatio, ibidem [= Coloniae apud Gymnicum] excusa, primum seorsim, anno 1538. in 8. chartis 18. cum Indice copioso: deinde 1541. cum expositione in Bucolica Virgilij & libello de conscribendis epistolis: chartis 36. (431r)

ここではVives 1の本タイトルと同じタイトルのケルン1538年版と1541年版が取り上げられている。41年版ではVives 1と同じ部分タイトルが記述されている。しかしながら、1538年ケルン版はVD16では検索できない。ケルンでは同名のタイトルの八折判は1544年（VD16, V 1872）と45年頃（印刷年の記述なし）（VD16, V 1873）にギムニヒから刊行されているため、ひょっとするとゲスナーは45年頃の版を誤って38年版とした可能性がある。また、1541年版では印刷地の記載がない。実際VD16では41年版（VD16, ZV 15254）はバーゼル版で確かにウェルギリウス『牧歌』の注釈が収録されている。つまり、ゲスナーはビベスによるウェルギリウス『牧歌』注釈を1541年版ではcum注記で言及し、1539年版では構成部分として取り出して記述しているのである。

Vives 2ではタイトルページから必要な語句を選択してより簡略に記述し、印刷地、印刷者、印刷年、判型は一致したが、ページ数がやや不一致であった。ゲスナーの計算が間違っていたようだ。

Vives 3ではビベス『靈魂と生について』の2つの版が記述されている。最初の版はバーゼルのヴィンターによる1538年版でビベスの作品のみの単行書であり、VD16, V 1802と一致する。ゲスナーはタイトルページをかなり忠実に記述していることがわかる。タイトルの記述の末尾にあるIndexについてはゲスナーはcum注記としている。本書の判型についてゲスナーは8（八折判）とするが、VD16では4（四折判）であるため、ゲスナーが間違えていることがわかる。ゲスナーは八折判40シートとするため、ページ数計算では $40 \times 8 \times 2 = 640$ ページとなるが、VD16では $4 \times 2 + 264 + 24 \times 2 = 320$ ページと計算される。

Vives3に含まれるもう一つの版は「deinde rurfus（その後さらに）」以下に記述されたもので、cum以下にあるメラニヒトン『靈魂論注釈 *Commentarius de anima*』と「カッシオドルス（Cassiodorus, Flavius Magnus Aurelius, ca. 485–ca. 585）が執筆したと思われる（opinor scriptis）『靈魂論 *De anima*』」を含む8（八折判）である。刊記は「同様における apud eundem」と示され、その前にある印刷地・印刷者と同じであることを意味する。つまり、バーゼルのヴィンター版である。VD16で該当する版を検索するとヴィンター1543年版（V 1803）があることが判明する。1543年版ビベス『靈魂と生について』、メラニヒトン『靈魂論注釈』、カッシオドルス『靈魂論』の3書が

合刻されたもので、ゲスナーの記述と一致する。タイトルページの最終行には「ANNO M D XLIII. 1543 年」と印刷年が明記されているため、なぜゲスナーは印刷年を BV1 で記載しなかったのか不思議である。ところが、ゲスナーはメランヒトン『靈魂論注釈』についてはメランヒトンの項目で以下のように記述している。

Commentarius de anima, qui seorsim exiuit Basileae apud Rob. Vuinter, & Vuitenbergae, 1540. in 8. chartis 32. (557v)

この記述の「&」より前には Vives<sup>3</sup> と同じバーゼルのヴィンター版が挙げられており、上記の 1543 年版であることが推定される。「&」以下でヴィッテンベルク 1540 年版が言及され、八折判で 32 シート (= 256 葉) からなると言う。このヴェッテンベルク版 (VD16, M 2749) は単行書であり、VD16 によれば 255 葉である。シートとして数えれば 32 シートになるため、両者は一致しているとみなすことができる。

また、カッシオドルス『靈魂論』についてもゲスナーはカッシオドルス (M. Aurelius Cassiodorus) の項目で以下のように言及されている。

De anima liber, excusus Basileae apud Rob. Vuinter: diuisus in capita 18. (494r)

バーゼルのヴィンター版で「18 章に分かれている」と注記するが、印刷年、判型とシート数の記載はない。ヴィンターはカッシオドルス『靈魂論』を 1543 年版以外に刊行していないため、上述のメランヒトン同様に 1543 年の刊行であるとみなすことができよう。一方、「18 章」については本書の p. 706 に「章一覧 ELEN CVS CAPITVM」があり 18 章の見出しが示されてため、ゲスナーはこれを見たのであろう。

以上のようにゲスナーの記述をデータベースと比較検討すると、ゲスナーの記述の正確さと、タイトルを表記するための語句の選択が見られる。刊記の記載については現物の記述をその通りに写すことをせずに、ゲスナーは自分で決めた規則に従っていた記述していたと考えられる。しかし、印刷年が書物に明記されていても BV1 に記述しないこともあった。一方、葉数、頁数の算定には不正確な場合もあった。そして、ゲスナーは著者と訳者の両方で同じ版を記載して副出を行い、さらに書物を構成部分単位で書誌を記述することも行っていたことが判明した。

## 6. まとめ

ゲスナー『万有書誌』に収録された印刷本のうち版の同定の可能性がある書誌記述が行われたものは、著者 1,706 名の 3,855 件の印刷本である。ゲスナーの記述による印刷年の範囲は 1473 年から 1545 年までであり、印刷地はバーゼル、ヴェネツィア、パリ、リヨン、ケルン、シュトラスブル

クを中心として、さらにハンブルク、クラクフ、ヴィリニュス、ブラショフ、イスタンブル、ナポリ、リスボン、ユトレヒト等で刊行された書物が含まれており、ゲスナーは広範囲な印刷本の情報を収録していたことが判明した。主要な印刷地における主な印刷出版者はバーゼルのペトリ、ヴィンター、フローベン、オポリヌス、クラタンデル、ヴェネツィアのアルド、リヨンのグリフィウス、パリのウェシエル、ケルンのギムニヒ、チューリヒのプロシャウアー等であった。印刷本が多数収録された著者としてはメランヒトン、ルター、エコランパディウス、ミュンスター、ニューフォ、ビェス等であった。

ゲスナーは印刷本の書誌を記述するにあたって、必ずしも一律の基準で統一的に書誌記述を行ったわけではなく、詳しい情報が得られたものと不確かな情報しか得られなかったもので記述に大きな差があった。現物を見ることができた書物については、ゲスナーは正確な記述を心がけているが、刊記が不十分なものもあった。また、葉数、ページ数では正確にカウントすることができない場合もあった。さらに、ゲスナーは著者名の下に作品を収録するだけでなく、翻訳書であれば著者と訳者名の両方でその作品を収録していた。さらに、書誌記述を構成部分単位で行っていたことも判明した。したがって、BV1に何点の印刷本が収録されているのかという問題では、タイトルののべ件数をカウントすることはできても、それが物理的に何冊であるかということを明確にすることは極めて困難であることが判明した。

最後に、今後の研究課題を2点挙げておきたい。第1に、ゲスナーが収録したすべての印刷本の数量を再度確認して、その書誌情報について15-16世紀印刷本の書誌データベースおよび図書館蔵書目録と照合すること。第2には、それによって得られたデータに基づいて、ゲスナーの誤謬や知り得なかったことを修正・補足して、ゲスナーの記述の正確性を測定し、さらにBV1に収録された印刷本情報の今日的な意味での範囲を確定することである。

## 付記

本稿は2013年日本図書館情報学会春季研究集会（2013年5月25日筑波大学筑波キャンパス春日エリア）で発表した原稿にその後の研究成果を加えて大幅に訂正追加したものである。

なお、本稿は2012年度早稲田大学特定課題研究助成費（課題番号2012B-052）および平成25年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））（課題番号：25330401）による研究成果の一部である。

## 【注】

- 1 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌的源泉」、『学術研究—教育学・生涯教育学・初等教育学編』59（2010）、p.47-71.
- 2 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』と宗教改革」、『学術研究—人文科学・社会科学編』60（2011）、p.61-80.
- 3 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌記述要素の起源について」、『学術研究—人文科学・社会科学編』



- 61 (2013), p. 91-116.
- 4 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌的源泉」, p. 48-49.
- 5 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌記述要素の起源について」。
- 6 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌的源泉」, p. 50.
- 7 Serrai, A. *Storia della bibliografia, VII: Storia e critica della catalogazione bibliografica*. Roma: Bulzoni Editore, 1997, p. 61.
- 8 Serrai, A. & F. Sabba. *Profilo di storia della bibliografia*. Milano: Edizioni Sylverstre Bonnard, 2005, p. 40.
- 9 Sabba, Fiametta. *La 'Bibliotheca universalis' di Conrad Gesner: monument della cultura europea*. Roma: Bulzoni Editore, 2012, p. 159-167.
- 10 *Ibid.*, p. 161-166.
- 11 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌記述要素の起源について」, p. 114.
- 12 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌的源泉」, p. 55.
- 13 The British Library. *Incunabula Short Title Catalogue (ISTC)*. URL: <http://www.bl.uk/catalogues/istc/> (参照 2013.10.1).
- 14 Yukishima, Koichi. *Incunabula in Japanese libraries (IJL2)*. Tokyo: Yushodo Press, 2004, 298.
- 15 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌的源泉」, p. 49.
- 16 Cf.: BV1, 563r, PISONIS.
- 17 Cf.: BV1, 411r, JOANNES Dantiscus; 482v, LIBANIVS ex Antiochia Syriae; 585v, RODOLPHVS Agricola iunior; 622v, VARINI Phaurorini Camertis.
- 18 Cf.: BV1, 426r, IOANNIS Honteri Coronensis.
- 19 Cf.: BV1, 398r, IOANNES Capnion, alias Reuchlin.
- 20 Cf.: BV1, 105v, 108v, 109r, AVGVSTINVS Niphus Philotheus Sueffanus; 245v, FORCIANAE; 246r, FRANCISCVS de Accoltis Aretinus; 383v, IOANNIS Antonij Piperonis.
- 21 Cf.: BV1, 58v, ANTONII Lodouici.
- 22 Cf.: BV1, 270r, GEORGIVS Macropedius.
- 23 Cf.: BV1, 627r, 627v, VRBANVS Regius.
- 24 1545年までにロシアではまだ印刷所が稼働していないため、ロシアはここに列挙されるべきではない。ロシア最初の印刷所はモスクワで1564年に稼働した。
- 25 Hieronymus, *Frank. 1488 Petri-Schwabe 1988: eine traditionsreiche Basler Offizin im Spiegel ihrer frühen Drucke*. Basel: Schwabe & Co., 1997.
- 26 Gessner, Conrad. *Index librorum, quos Christophorus Froschouer Tiguri hactenus suis typis excudit*. Tiguri: Christof Froschouer, [15] 43.
- 27 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』と宗教改革」, p. 68-69; 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌記述要素の起源について」, p. 104-111.
- 28 Bayerische Staatsbibliothek. *Verzeichnis der im deutschen Sprachbereich erschienenen Drucke des 16. Jahrhunderts (VD16)*. URL: <http://www.bsb-muenchen.de/16-Jahrhundert-VD-16.180.0.html> (参照 2013.10.10).
- 29 Istituto Centrale per il Catalogo Unico delle biblioteche italiane e per le informazioni bibliografiche (ICCU). *EDIT 16*. URL: [http://edit16.iccu.sbn.it/web\\_iccu/ihome.htm](http://edit16.iccu.sbn.it/web_iccu/ihome.htm) (参照 2013.10.10).